

上海図書館《中国近代中英文報紙全文数拠庫》を用いた 中華民国映画資料の調査——天一社の広告を例として

徐舒、王之穎

中華民国時代の中国映画は常に近代中国研究の対象となっており、特に近代中国の都市文化研究者に注目されている。清末民初の萌芽期を経て、上海では一九二〇年代に映画会社が続々と登場し、同時に映画に関する雑誌や新聞も続々と創刊された。これらは今日の研究に対しても資するところが大きい。

一九二七年に出版された『中華影業年鑑』によると、一九二六年の終わりには全国で一七九社の映画制作会社が設立され、特に上海には一四二社が存在していた。国産映画の年間制作本数も年とともに増加し、一九二三年に五本であったものが、一九二四年には一六本、一九二五年には五一本、そして一九二六年には一〇一本にまで増加した。明星、大中華百合、天一、更には長城、神州など、作風がそれぞれ異なる会社、熾烈な競争を繰り広げていたのである。

天一影片公司（以下、天一社）は一九二五年に邵氏四兄弟により投資設立された典型的な家族経営の民営会社で、民国期の上海で最も重要とされる映画制作会社の一つである。民国期の映画研究において、天一社は必須の研究対象となっている。

現在、中華民国時代の映画雑誌に関する研究は比較的進んでいる。代表的な映画雑誌『影劇雑誌』『晨星』『青春電影』『電影週刊』などは、すでにこの時期の映画研究に無くしてはならない資料となっている。また、新聞も重要な資料と言える。大手新聞は豊富な関連報道や大量の映画広告を掲載し、同時に小規模な『電影日報』『開麦拉』『影劇生活』などの映画専門新聞も存在した。しかしながら、実見の不便さなど多くの困難があり、新聞資料を基にした民国期の映画研究は非常に



図1

少ない。近年ようやく新聞資料データベースが発展しつつあり、これまでほとんど見ることができなかった希少な資料も数多く研究者にもたらされ、関連研究に多様な素材を提供している。

上海図書館の《全国報刊索引》は新聞資料データベースのひとつで、現在、字林洋行傘下の一連の中英文新聞を収録する《字林洋行中英文報紙全文数拠庫》や《中国近代中英文報紙全文数拠庫》などをリリースしている。《中国近代中英文報紙全文数拠庫》には、中文新聞である『新聞報』『時報』、英文新聞の『大陸報』という大手の中英文新聞を収録している。くわえて、「小報」という全紙判新聞より紙面の小さいタブロイド判新聞四〇〇種あまりを全四集で収める。これらはレジャーや娯楽情報を扱ったものが多く、自由で大衆受けする記事の中には、民国期の上海の映画文化に関連する内容が無数に存在する。

本稿は新聞広告という視点から、民国

期の上海で最も重要な映画制作会社の一つであった「天一社」及びその制作によるトーキー映画（一九三二年上映『歌場春色』と一九三三年上映『上海小姐』）を例として、《中国近代中英文報紙全文数拠庫》を用いてどのような情報収集・分析ができるのかを示すものである。

まずは、調査の基本となる《字林洋行中英文報紙全文数拠庫》および《中国近代中英文報紙全文数拠庫》の特徴的な機能とその使用方法について詳述したい（なお検索結果は、二〇一九年二月現在のものである）。

《全国報刊索引》トップページの検索ボックス上段にある「中文報紙」と「外文報紙」にチェックを入れ、さらに下段の「廣告」をチェックすると共に、検索ボックスに「天一公司」と入力して検索を行うと（図1）、合計三二六三件の検索結果が得られる。上海図書館はすべての新聞に索引を付けて広告を記録しているので、検索結果ページの左側には、文献来源、広告類別、広告发布者、広告欄目のそれぞれでヒットした件数、及び出版年によって分別したクラスター分析結果のグラフが表示される。それによると、三二六三件のうち、一二四九件は『新聞報』、一七八五件は『小日報』『福爾摩斯（ホームズ）』『社会日報』『世界晨报』などの小報、そして七七件は『時報』

に掲載されていることが分かる。また、「出版年」のクラスター分析結果のグラフを見ると(図2)、一九三〇年代に「天一社」の新聞広告出現数が最高に達したことが見てとれる。更に、一九三〇―一九三九年で見てみると、一九三二年の九七〇件が最大であったことが分かる(図3)。

データベースの機能を十分に活用することで、ある一本の映画に関する広告を多面的に解析し、天一社の宣伝戦略や映画の上映規模などについて大まかに把握することができると、映画監督、俳優、入場料、上映映画館チェーン、広告の特色などの情報も得られるため、その重要性を疑う余地はない。

中国におけるトーキー映画の先駆者である天一社は四十数万元の資本を投じて、米国から機器を購入した。最初のトーキー映画である『歌場春色』は大あたりし、続く『最後之愛』『上海小姐』の二本も好成績を収めた。

先述の方法で『歌場春色』を検索すると、七四件の広告がヒットする。そのうち七〇件が小報のものである。小報の広告は、版組に柔軟性があり、文体も大げさで扇動性が高く、映画ファンの興味を引き付けた。さらに、排比(構造の類似する文または句を並列することによって内容を強調する手法)を多用してその迫力を高めている。例えば、図4は一九三二年一〇月二九日の小報『世界晨报』に掲載された『歌場春色』の広告であ

る。「歌場春色は中国で初めての……」を繰り返すことで勢いのある宣伝を作り、人の目を引いている。また、天一社は同じ文章の広告を連続して掲載するという戦略をとっていたことも分かった。

例えば、『歌場春色』の広告は、『新聞晨报』に一〇月二九日から一〇日間連続で掲載されていると同時に、ほかの小報でも別タイプの『歌場春色』の広告が掲載されている。

これら七四件の広告を精査すると、天一社が『歌場春色』の宣伝に一念な下準備を行ったこと、そして『歌場春色』の広告を次の映画の宣伝にうまく利用していたことが分かる。『歌場春色』上映日程の半分が過ぎたころ、天一社の広告では

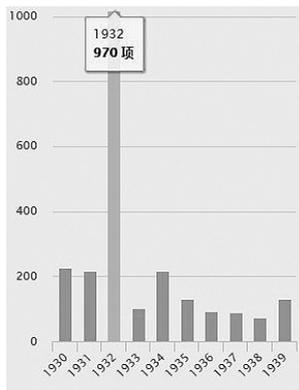


図3

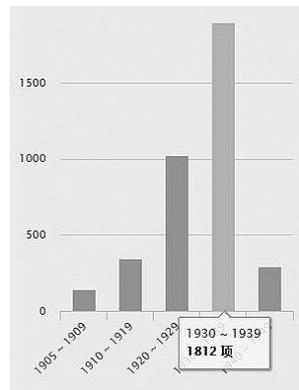


図2



図5 1932年4月26日『新聞報』より

歌場春色

天一片影 巨有聲片

（一）歌場春色は中國第一部真正の音楽電影（二）歌場春色は中國第一部有聲電影（三）歌場春色は中國第一部彩色電影（四）歌場春色は中國第一部彩色有聲電影（五）歌場春色は中國第一部彩色有聲電影（六）歌場春色は中國第一部彩色有聲電影（七）歌場春色は中國第一部彩色有聲電影（八）歌場春色は中國第一部彩色有聲電影（九）歌場春色は中國第一部彩色有聲電影（十）歌場春色は中國第一部彩色有聲電影

図4 1931年10月29日『世界晨报』より

映画館が連日超満員であることを強調し、しかも「上映日程終了後は『歌場春色』を追加上映することはありません、未

だご覧になっていない方はお見逃しの無いように」と添えている。さらに、「二本目のトーキー映画『最後之愛』はすでにクランクアップしており、近日公開予定です」とも発表し、次回作への観客の期待を盛り上げている。「歌場春色」の上映終了後には、天一社は「羅賓漢(ロビンフッド)」「大晶報」「克雷斯」「世界晨报」に『歌場春色』『最後之愛』『上海小姐』をセットで掲載・宣伝した。

広告内容以外では、映画広告が紙面に占める割合と位置からも、ある程度映画配給会社の宣伝方針と力の入れ方を見ることがができる。一九三二年四月二六日発行の『新聞報』に注目したい。この『新聞報』は「広告新聞」とも呼ばれるほど広告紙面が特徴的な新聞で、広告の配置や形式も多様であることから、近代中国において、重要な研究対象とされている。また、この日に『新聞報』が初めて『上海小姐』の半面広告を掲載して非常に大きな反響を呼んだことは、極めて象徴的な出来事と捉えることができよう。

図5がその『新聞報』第一面であるが、『上海小姐』の広告が『新聞報』の題字の左側、全紙面の半分を占めて掲載されている。また、全一四面のうち、映画の全面広告ページが二面とられており、一面は主に上海で同時上映されているハリウッド映画の広告が並び(図6)、もう一面には国内映画の広



図6(上)・図7(下)
1932年4月26日『新聞報』より

告(図7)が掲載されている。天一社は第一面の半面の広告権を買収しただけでなく、映画広告ページにも『上海小姐』の広告を出しており、最も目を引く位置に据えられている。同時に天一社のもう一本のトーキー映画である『最後之愛』の広告もあり、一九三〇年代はじめ、天一社が中国映画界において一世を風靡していたことを示している。

以上、天一社とその撮影したトーキー映画を例にして、『中国近代中英文報紙全文数拠庫』の検索方法とその結果の活用

について示した。

当然、広告以外にも新聞の本文中には研究に値する内容が多く存在する。例えば、一九三六年七月三十一日付の『社会日報』第二版に掲載されている「邵醉翁の新宣伝技術」では、天一社が宣伝で成功を収めた理由を分析しており、一九三二年七月一三日付の『小日報』では「天一影片公司是間もなく最初のトーキー映画の撮影を開始する。タイトルは『歌場春色』で、ダンスホールでの悲しみにあふれた出来事を描き、女性ダンサー四〜五〇人によるダンスシーンが二場面有り

…」と映画のシーンなどを詳細に描写している。『新聞報』でも『上海小姐』のレビューが見られるなど、映画に対する世論を理解するための重要なチャネルとなっている。

天一社はその後東南アジアおよび香港での映画館経営や映画制作を続け、広東語映画の撮影にも力を注ぎ、最終的に邵氏帝国を築き上げたため、その研究の方向性も多様なものとなっている。例えば、映画と広東語圏文化の相互関係、映画の中のファッションや流行、あるいは映画にあらわれる女性イメージに基づく歴史や社会学に関する研究、建築史における映画館の位置づけ、上海の映画産業と都市文化の関係などである。これらはみな研究者による整理と検討を待っている。その他の分野の研究者にとっても、近代の新聞は、新たに扉が開かれるのを待っている宝庫の一つである。

上海図書館は『中国近代中英文報紙全文数拠庫』に対して、積極的に資料を追加していく予定なので、今後も更に多くの民国期の中文・英文新聞がデジタル化され、各分野の研究に更なる利便性やインスピレーションをもたらすものと信じている。

(しよ・じよ、おう・しえい 上海図書館)

ご案内

《全国報刊索引》とは、《字林洋行中英文報紙全文数拠庫》《中国近代中英文報紙全文数拠庫》の他、《晚清期刊全文数据库》《中文期刊全文数据库》《晚清期刊篇名数拠庫》《中文期刊篇名数拠庫》《中国金代文献図庫（図片庫）》を含むプラットフォームの総称です。

検索も含め、《全国報刊索引》のご利用には、登録が必要です。東方書店では随時トライアルを受け付けております。トライアルは大学・機関単位でお申し込みください。個人でのトライアルはできませんのであらかじめご了承ください。

お申し込み・お問い合わせ

東方書店業務センター

TEL03-3937-0300 / FAX03-3937-0955 /

tokyo@toho-shoten.co.jp

東方書店関西支社

TEL06-6337-4760 / FAX06-6337-4762 /

kansai@toho-shoten.co.jp